

2025年3月実績概要（メモ）

(2025. 4. 17)

クラッカーの定修がない中、誘導品では春の定修シーズンに備え、増産品目が散見される。

1. 生産動向

イ) エチレン 446, 400トン

前月比 + 9. 6% (+39, 300トン)

前年同月比 +10. 1% (+40, 800トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+10. 7%	—
定修要因等	—	+15. 0%
能力増減	—	—
稼働率変動	▲ 1. 1%	▲ 4. 9%
生産増減率	+ 9. 6%	+10. 1%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月75. 9%* → 当月75. 2% ← 前年同月78. 6%

定修プラント：前月 なし → 当月 なし ← 前年同月 2社2プラント

令和6年度(会計年度)生産量 4, 970. 5千トン 前年度比 ▲5. 7%

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、日数の増加を主としてHDPE、PP、SM、EO、EG、AN、BR、ベンゼン、キシレンなどの13品目がプラス。PS、塩ビ樹脂などの4品目はマイナスとなった。

前年比は、定修規模差や稼働率要因等から、PS、塩ビ樹脂、AN、キシレンなどの11品目がマイナス。HDPE、EO、EG、SBR、ベンゼンなどの6品目はプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、LDPEは日数の増加と定修規模差が相殺し前月並み、HDPEは主に稼働率要因、PPは日数増加からそれぞれでプラスになった。

前年比は、稼働率要因や定修規模差等からLDPE、PSはマイナス、HDPEはプラスとなった。

ロ) 国内出荷

消費のマインドは、前月に比べて暮らし向き、収入面や雇用環境で下押しの動きが続いており、足踏みの状態が続いている。国内の生産活動は、前月の2月は生産用機械、電子部品等で上昇が見られ、その後の3月の予測でも石油製品、生産用機械を中心に増加が見込まれている。また、生産活動のトレンドも緩やかながらも上昇の動きが出ている。

汎用樹脂の出荷は、前月比は、川下産業の稼働日数の増加や期末要因も重なり、LDPE、HDPE、PP、PSともにプラス。前年比は、HDPE、PPはプラス、PSはマイナスとなった。

分野別の出荷状況としては、フィルム等の包材関係は、前年比でLDPEは微減にとどまる一方、HDPE、PPは増加が見られている。包材以外の分野では、前年比で、LDPEはラミネート分野、HDPEは中空成形分野、パイプ分野、PPは射出成形分野、押出成形分野、PSは電機・工業分野で増加が見られ、前年を上回る出荷分野が増えつつある。

ハ) 輸出

米国による関税措置の動向に伴う先行きの不透明感があるとともに中国市場も様子見の動きが続いている。前月比は、年度末要因もありLDPE、HDPE、PP、PSで増加した。前年比は、LDPE、HDPE、PSはプラス。PPのみはマイナスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対して、LDPE、PP、PSで減少し、HDPEのみは増加した。在庫率(季節調整済)は、LDPE、HDPE、PPで上昇、PSは前月並みとなった。在庫水準としては、LDPE、HDPE、PP、PSともに高めの傾向が見られている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		2月末	3月末
LDPE	▲ 12, 900	3. 3	3. 6
HDPE	+ 9, 800	3. 8	4. 2
P P	▲ 6, 300	3. 0	3. 1
P S	▲ 3, 700	1. 9	1. 9

前月からの修正を*で付記

以上